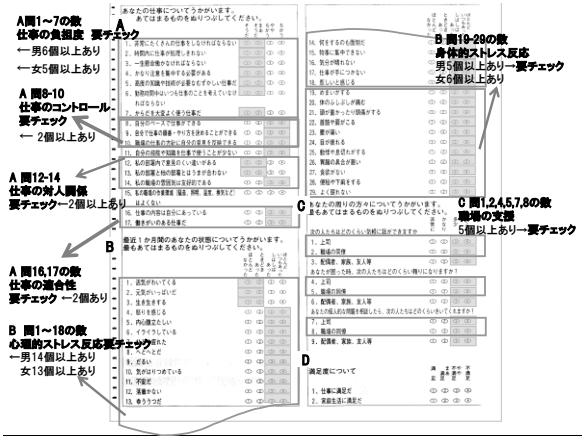
簡易判定法の利点と注意点

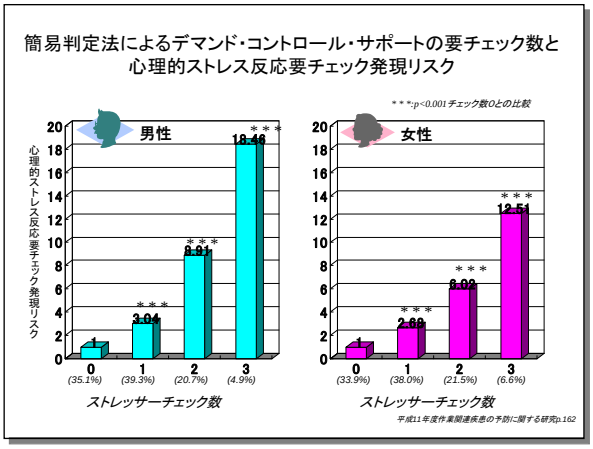
利点

- コンピュータ不要
- 短時間での評価が可能
- セルフチェックに便利

注意点⇒あくまで簡易判定である

- 各項目について 4 段階の回答を 2 段階にして評価している
- 評価に用いられない項目がある（技能の活用、職場環境）
- 一部併せてひとつの尺度としてある（仕事の負担度）要チェック数が同じでも、その組み合わせによってリスクが異なる



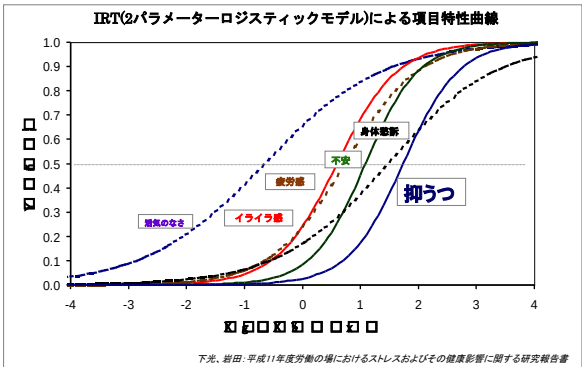


資料：労働省「作業関連疾患の予防に関する研究」労働の場におけるストレス及びその健康影響に関する研究報告書

職業性ストレス簡易調査票の蓄積データの分析からの情報

１）ストレス反応尺度の特性

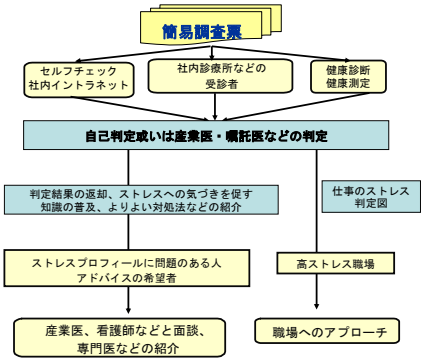
職業性ストレス簡易調査票の
ストレス反応尺度の回答の様相



２）心理的ストレス反応尺度 5 尺度のカットオフポイント

- 患者群 58 名（DSM-Ⅳによる、気分障害、不安障害、身体表現性障害、解離性障害、摂食障害、睡眠障害、適応障害）と身体・精神疾患の既往および事故経験のない勤労者群 1321 名
- 抑うつ、不安、疲労、怒り、活気について、合計点を算出（活気のみ逆転）。点数の範囲 18～72 点
- 男女　44／45 点とすると
  特異度 85.7、感度 89.9
- 男性　44／45 点とすると
  特異度 85.7、感度 90.5
- 女性　44／45 点とすると
  特異度 85.7、感度 83.7

身体的ストレス反応（身体愁訴 11 項目）についても報告書に記載がある。

職業性ストレス簡易調査票の活用方法

職業性ストレス簡易調査票の利用方法